

## きょういく



## さど

令和5年5月12日  
第88号  
佐渡市教育委員会  
学校教育課

## ご挨拶とお願い

教育長 香遠 正浩

このたび、任期満了の新発田前教育長の後任として就任いたしました。私は教職に就いてから38年間義務教育の仕事に携わってきました。佐渡市内でも7つの小中学校に勤務しました。この間、社会の変化に伴い子どもを取り巻く環境が大きく変わり、教職員の負担も増えていることを承知しています。子どもはもちろん、教職員にとってもウェルビーイングが求められます。教職員の皆様からご理解とご協力をいただきながら教育行政に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年度が始まってから1か月が経ち、ゴールデンウィークが明けるとともに新型コロナウイルスが感染症法上5類へと移行されました。これから教育活動を充実させるにあたり、ポストコロナの新たな世界、いわゆるニューノーマルへの移行も検討されることでしょう。

その際、子どもをはじめ、保護者や地域住民の思いや考えも大事な視点となります。校・園長会で情報交換をするのもよいですし、心配があれば教育委員会にご相談ください。

佐渡市の令和5年度教育行政方針も一つの視点となります。6つの基本目標として掲げている事業や内容には確実に取り組んでいただきたいと思います。改めて内容をご確認願います。

各学校・園において、年度の重点目標を達成することは容易なことではないと認識しています。一部の職員だけの努力では達成できません。全職員が一丸となって取り組む必要があります。ベクトルを同じ向きに揃え、計画的に進めていただきたいと思います。



## 教職員の笑顔があふれる学校！

管理主事 本間 智英

大型連休は少しゆっくりできましたか？

今年度は、始業式までの準備期間が短く、連休まで怒涛の1か月だったと拝察します。そのような中、各校で新年度のよいスタートをきっていただいたことに感謝申し上げます。

さて、今から三十数年前、私は新潟市内の小学校に新採用として赴任しました。1学期間は若さと鈍感さ？で何とか乗り切ったのですが、2学期になると…。勉強になる毎日、悩み多き毎日でした。

そんなある日、2つ上の先輩が食事に誘ってくれました。きっと見るに見かねてのお誘いだったと思います。その後も何度か声をかけていただきました。私にとっては話を聞いてもらえ、悩みを打ち明けることができるとてもよい時間でした。しかし、先輩にとってこの時間はどうなのだろう、私は先輩にお詫びをしました。その時の先輩の言葉が、今でも私の心に残っています。

「私も先輩に話を聞いてもらい、支えてもらいました。次は、本間さんが後輩や同僚にしてあげればいだけの話ですよ。」

その日から今日まで、先輩の教えのとおり振る舞っているか分かりません。お節介過ぎるかもしれません。逆に、支えたいと思いながら、実は私が支えられていたということも多々あります（今もそうです）。

これから学校は、ポストコロナの新たなステージを迎えます。過去にとらわれず、新しい学校を創るよい機会です。そのような時だからこそ、自分の力を誰かのために発揮し、できないことは助けてもらって仕事をする、そんな支え合いのある学校であってほしいと願っています。教職員の皆さんの笑顔があふれる学校に！少しでもお力になれるように私も…。

**学級経営充実のために**

指導主事 小田俊裕

新年度が始まって1か月がたちます。先生方は笑顔で子どもたちと接し、良好な人間関係の構築に努めてこられたと思います。教師と子どもたちとのこれからも子どもたちの意欲的な姿や適切な行動を見逃さず笑顔で声を掛け、認め・賞賛してほしいと思います。

さて、学力向上を目指すとき、その土台となる「学びに向かう集団」づくりのために学級経営の充実が欠かせません。小学校学習指導要領第1章総則には学級経営の充実について「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」と示されています。また、第6章特別活動において「学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図る」ことが示されています。（※中学校学習指導要領にもほぼ同義の記述あり）

しかし、学級経営充実のために具体的に何をどうすればよいのかと頭を悩ませる先生方も多いと思います。佐渡市教育委員会では6月と11月

（予定）に愛知教育大学の磯部征尊准教授を指導者としてお招きし、「学級力向上研修」を開催します。新潟大学教育学部附属新潟小学校が提案した、「学級力」を高めるためのRPDCAサイクルの取組について具体的な事例をもとに学ぶことができる研修です。興味のある先生が誰でも参加できるよう、希望制の研修としました。自身の学級経営をグレードアップできるまたとない機会です。多くの先生方の参加をお待ちしています。

**「組織的対応」の必要性**

教育指導主事 吹屋 昇

生徒指導は学校教育の根幹であり、児童生徒が健やかに成長するために欠かすことのできない教育活動です。しかし、多様化する価値観や社会、学校内外の様々な環境変化により、的確な生徒指導に必要な知識や情報がますます複雑化していることもまた確かです。そこで、いじめをはじめとする諸問題の解決に向けては組織的な対応が求められています。

**1 情報の共有**

生徒指導上の問題が発生した場合、該当する児童生徒の性格、友人関係、家庭環境、さらにそれまでの指導履歴といった多面的な情報を収集し、関係教職員で共有することが必要です。これが問題の複雑化・深刻化を防ぎ、早期解決に導くための第一歩となります。

**2 指導体制の確立**

問題の解決のためには、それに適したアプローチとアクションプランが必要です。上記1で共有した情報を基に、児童生徒への指導内容や配慮事項、指導のタイミング、役割分担等を決定し、解決に向けた見通しを立てることになります。その際、学級担任など特定の教職員に負担が偏ることのないよう配慮することも必要です。

**3 指導後の見取り**

特に、いじめなど「被害児童生徒」が存在する問題の場合は、指導後の見取りが重要です。生徒指導部会等で継続的に状況を確認し、必要に応じてさらなる対応をとります。いじめの場合、再発は間違いなく事態の深刻化をもたらすことになり当該児童生徒はもちろん、指導にあたった教職員も大きな心のダメージを受けることとなります。

学校は、集団生活を通して社会性を育む場であり、その成長の過程で様々な問題が発生することは当然のことと思います。重要なことは問題の早期解決と再発防止。そして、そのためのキーワードが「組織的対応」です。全教職員が意識することで学校組織としての指導力を高め、子どもたちの健全な成長を促していきましょう。

**令和5年度学校教育課「管理主事・指導主事」**

今年度は以下のメンバーで学校支援を行います。よろしくお願ひします。

管理主事	本間 智英（管理業務）※新任	指導主事	小田 俊裕（学習指導）
教育指導主事	本多 アヤ子（総合教育センター所長）※新任		
教育指導主事	村川健太郎（総合教育センター）	教育指導主事	齋藤 千賀子（キャリア教育）※新任
教育指導主事	吹屋 昇（生徒指導）	教育指導主事	名古屋 瑞穂（不登校）
教育指導主事	庄山佳代子（人権教育、同和教育、特別支援教育）	教育指導主事	古塩 正明（理科教育センター）



&lt;令和4年度末 退職&gt;

教育指導主事 加藤 雄一郎